

平成18年度「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」成果報告書

事業名	1) エンジン分解整備 2) 日常点検整備		
法人名	学校法人 静岡自動車学園		
学校名	専門学校 静岡工科自動車大学校		
代表者	校長 平井 一史	担当者 連絡先	学生課 岡本 典之 TEL 054-263-4667
<p>1. 事業の概要</p> <p>①小・中学生対象に、自動車の整備について興味を持ってもらうため、簡単に分解が出来て、満足が得られるエンジン分解を体験してもらう。</p> <p>②自動車を使用している方を対象に、自分の自動車のメンテナンスを自分の手でやってみて日常点検などは使用者にでも出きることを体験してもらう。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>エンジン分解整備講座では機械に興味がある小・中学生を対象に50ccエンジンの分解をして、エンジンの仕組みを理解してもらうとともに、自動車整備に興味を持ち、整備士という職業に興味を持ってもらう。始動できるエンジンを自らの手で分解し、エンジン内部を確認し、手で触れることでエンジンが回転する仕組みに興味を持ってもらうことができた。</p> <p>また、分解したエンジンを組み立て最終確認として、再び始動させることで満足感と、作業の充実感を与えることが出来た。</p> <p>日常点検整備</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>エンジン分解整備講座では、最初から最後まで参加者に作業をさせ、講師が補助に徹することで、参加者に大きな満足感が得られたと思われる。また、付き添いの保護者からも、このような講座があれば次回も参加したいとの声も聞かれたことはわれわれにも大きな成果である。</p> <p>日常点検講座においても自動車学校などでも教習科目として実施しているエンジンルーム内の、オイルや冷却水、バッテリー点検をもう一度ユーザー自身が実施することで、わずかでも常に減少していることを理解し、点検の大切さを認識</p> <p>③今後の活用</p> <p>このような講座を毎年実施していくことで、地域の人たちに自動車のメンテナンスに対する不安を減らし、不要なトラブルを未然に防ぐことが出来れば良いと思う。小・中学生の講座についても毎年実施することでリピーターを増やし、より興味ある作業を実施していき、自動車整備という仕事を理解してもらう。</p>			

④次年度以降における課題・展開

今回の講座については、実施方法や地域への広報活動について文部科学省からのアドバイスやサポートが受けられるであろうと認識していたため、取り組みが遅れることとなった。(予算上でも広報費の計上をしていなかった)次年度からは広報活動経費を計上し、早期対応を図ることで多くの受講者を呼び込むことが出来ると思われる。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

1)エンジン分解整備講座

受講者 小学生3人、中学生3人 (保護者3人)

受講者の反応については、講座終了後アンケートを実施、講座内容、作業のペース、講師の教え方など概ね満足する評価を受けた。また、今後この様な講座があれば参加するかの問に関しては、参加したい希望でしたので、次回開催に期待が出来ます。保護者の方から「もう少し広範囲での募集広告があればもっと人数が集まったのではないですか」と意見をいただいた。

2)日常点検講座

受講者 成人者 2名

参加者の人数が前日キャンセルもあり2名と少なかったため充実した講座を実施することが出来ました。講座内容については、使用車両はまず当校の教材車両で実施し、点検要領を確認していただいた。午後は、参加者自信の車両を使用して、パンク時のタイヤ交換(車両搭載の工具、ジャッキを使用)を行い路上でのパンク修理が出来るようにしました。また、エンジンルーム内の点検箇所や不具合が発生しやすい場所の特定及び点検方法を確認しました。

参加者の年齢にあわせた作業をするために1台のエンジン、車両に対し1人の講師をつけることで、参加者1人1人が熱心に取り組み、理解しながら作業を進めることが出来た。また、参加者に合わせた年齢層の講師の選択も良い結果に結びついた。資料についても動きのある資料(動画)をプロジェクタなどで投影し説明したり、今回の講座用に資料作成も行った。